

令和 6 年 6 月 2 1 日

甲府市議会議長 坂 本 信 康 様

民生文教委員長 深 沢 健 吾

所 管 事 務 調 査 報 告 書

民生文教委員会におきまして、甲府市議会基本条例第 1 8 条第 4 項に基づき、所管事務調査及び政策研究のテーマを定め、調査・研究を進めてまいりました経過と結果について御報告いたします。

令和 5 年 7 月 1 4 日の委員会におきまして、高齢化の進展による在宅医療の必要性を見据え、住み慣れた地域で安心して暮らすためには、切れ目のない在宅医療と介護の提供体制が不可欠と考え、今期の調査・研究テーマを「在宅医療・介護の体制づくり」と決定いたしました。

同年 8 月 9 日の委員会におきまして、当局から甲府市在宅医療・介護連携推進事業について説明を受け、質疑を行い、本市の在宅医療・介護連携の取組等について理解を深めました。

同年 1 0 月 1 8 日から 2 0 日までの日程で、静岡県掛川市、兵庫県尼崎市、京都府京都市、滋賀県近江八幡市への行政視察を実施し、医療・看護・介護等の多職種連携による先駆的な取組等について調査を行いました。

同年 1 1 月 1 7 日の委員会におきましては、行政視察の調査結果を踏まえた委員間討議を行う中で、「多職種連携はマンパワーがなければ実現できない」、「多職種の方々の顔が見える連携は注目すべき取組である」、「本市の現状にあった取組の調査・研究を進めていかなければならない」などの意見がありました。

令和 6 年 1 月 1 2 日の委員会におきましては、本市における在宅医療・介護連携の実情を把握するため、当局から説明を受け、今後の取組の方向性を共有することができました。

同年 1 月 2 9 日には「在宅医療・介護の体制づくり」をテーマに、医療・介護・福祉の専門職の方々との「市民と議会の交流会」を行い、「介護を担う人材の確保には処遇改善が必要である」、「医療や介護の望みを伝えることができる A C P ノートの周知と利用促進が必要である」など示唆に富む意見をいただきました。

同年 2 月 1 9 日及び 5 月 1 5 日の委員会におきましては、市民と議会の交流会やこれまでの議論を踏まえて活発な委員間討議を行い、在宅医療・介護の体制づくり

に当たっては、「人材の確保」、「ＡＣＰノートの普及・利用促進」、「多職種連携の強化」の３項目が肝要であるとの認識を委員間で共有いたしました。

民生文教委員会といたしましては、「人材の確保」として、在宅医療・介護を必要とする方が住み慣れた自宅や地域で療養し、適切な医療・介護等の支援を受けられるよう、介護専門職の人材不足の解消に向け、処遇改善を含めた取組を推進すること、「ＡＣＰノートの普及・利用促進」として、在宅医療・介護を必要とする方が人生の最期に備え、どのような医療・ケアを選択するか考え、家族と話し合うきっかけとなるＡＣＰノートの更なる周知に努め、活用につなげること、「多職種連携の強化」として、今後増えていくことが予想される高齢者の独居世帯や医療・介護など様々な課題を抱える世帯への、当事者・家族との意思疎通に基づく、寄り添った支援が提供できるよう、多職種連携の充実・強化に向け取り組むことがより一層必要であると考えます。

当局におかれましては、本調査・研究の結果を参考としていただきながら、在宅療養の増加を見据える中、医療と介護の両方を必要とする高齢者が、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを最期まで続けることができるよう、更なる体制の充実・強化に取り組まれることを期待し、報告いたします。